

3 肉用牛について

牛肉は、肉用牛とよばれる牛に、えさをたくさん食べさせ、大きく育てて(肥育といいます)体重が700kg程度になったら出荷され、みなさんに届けられます。

肉用牛農家は、子牛を生産する農家(はんしょく農家)と子牛を買って肥育する農家(肥育農家)に分けられます。また、両方を行う農家や、乳用牛のホルスタインの子牛を肥育する農家もいます。

〈主な肉用牛の種類〉

にく げ わ しゅ
黒毛和種



しぼう(サシ)が多く、やわらかい肉質が特ちょうです。国内で飼育されている和牛(日本の品種)のうち、90%以上が黒毛和種です。

に ほん たん かく しゅ
日本短角種

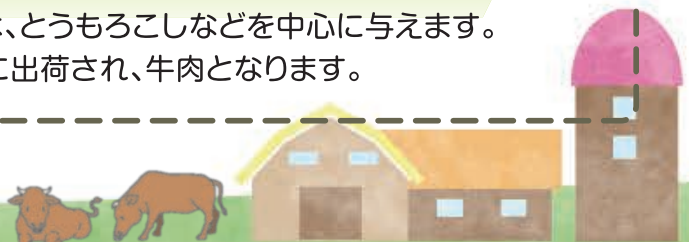


うま味のある赤身の肉が特ちょうです。青森県のほか北海道、岩手県、秋田県で飼育されています。

にく よう ぎゅう 肉用牛の一生



- 生まれた子牛は母牛の乳を飲んで育ちます。
- 生後3か月には牧草を食べられるようになります。
- 生後10か月以降は、とうもろこしなどを中心に与えます。
- 生後28~30か月に出荷され、牛肉となります。



肉用牛農場の1日(西村牧場の場合)



みなさんに、安全でおいしい牛肉を届けるために、肉用牛農場ではどのような仕事をしているのでしょうか。

ある日の1日のスケジュール

西村牧場は、子牛を生産するはんしよく農家です。飼っているのは、すべて「黒毛和種」とよばれる種類です。現在、メス牛を65頭飼っており、そのメス牛が産んだ子牛を年間約50頭、出荷しています。

朝

8:00
朝のえさやり
牛の観察

すべての牛の健康状態をチェックし、えさやりをします。えさは主に牧草と配合飼料をあたえています。



その後は、牛舎のそうじをします。牛舎のゆかにおがくずなどをしき、定期的に機械で集めて交かんします。

10:00
牛舎のそうじ

11:00
子牛のみ昼のえさやり
牛の観察

西村牧場は、交かんしたものを微生物の力ではっこうさせ、たい肥を作っています。たい肥は、自家農場の牧草、稲わら、飼料用米作りに利用しています。地元でとれた作物を牛が食べ、牛のふん尿をたい肥にして畑の土作りを行い、畑で実った作物は、ふたたび牛のえさになります。西村牧場では、こうした循環型農業に取り組んでいます。

昼

12:00
昼休み

お昼のえさをあたえるのは、子牛だけです。えさの配合やあたえ方を工夫し、適度な運動をさせて、じょうぶな体になるように気をつけています。



13:00
牛の見回り

14:00
夕方のえさやり
牛の観察

夕方のえさやりの時も、えさを食べる様子や毛なみなどを観察し、健康状態をチェックします。



牛の出産が夜中になりそうな日は、牛舎に取り付けたカメラを見ながら、夜もねむらずに見守ります。一番事故が多いのが出産時です。はんしよく農家は、元気な子牛が生まれるよう、愛情をもって母牛をサポートします。

夜

17:00
終業

肉用牛農場で働く人のしょうかい



株式会社 西村牧場 西村 智之さん



株式会社 西村牧場 (八戸市)

①肉用牛を飼うやりがい、おもしろさ

- ・自分たちが一生けん命育てた牛が、りっぱに育ち、市場で高く評価された時はうれしいですね。
- ・地元のレストランで使っていただいたり、消費者の方においしいお肉だねと言ってもらえることがやりがいです。



②肉用牛を飼ううえで重要なこと

- ・はんしょく農家の役わりは、母牛が産んだ子牛を健康に育てることです。妊娠してから285日で出産、生後約30ヶ月で肉になります。
- ・肉になるまでの約40ヶ月のサイクルを考え、日々、管理しなければなりません。
- ・牛の健康状態をよく観察し、次にやるべきことを常に考えることが大切です。



③みなさんへ伝えたいことやPR

- ・国産牛はどうしても高価に感じるかもしれませんが、安全な肉をみなさんに届けるために日々努力しています。
- ・みなさんがくらす青森県は畜産も農業もさかんで、他県にほこれる食べ物がたくさんあることをぜひ知ってほしいですね。

